

分野（ 2 ）気管支ぜん息・COPD患者の健康回復に関する調査研究

研究課題名：客観的指標によるぜん息コントロール状態の評価

申請課題名：客観的指標による喘息コントロール状態の評価

調査研究代表者氏名：大 田 健

評価コメント

- ・従来の方法に加えてモストグラフ等の指標を加えた改訂を行っており、マンネリにならないような工夫がされている。症例を増やして、効果検証を続けていただきたい。
- ・JGL2012に沿って第8期で作成した喘息テキストを改訂し、これを用いて、保健指導を行い、種々の指標の検討から、本年取り上げたモストグラフも客観的指標として重要であることを証明できた。成績は第8期のものが多く、さらなる積み重ねが期待される。
- ・気管支拡張薬吸入前後の評価にモストグラフを加えたことは新しい知見を得るのに役立っている。また、種々のパラメーターを幅広く検討し、最新のものも加えて集大成を図っている。前年の増悪が本年の増悪を予想する材料となることが明らかにされたが、治療との関連がはっきりしない。
- ・喘息の気道狭窄、特に末梢気道の狭窄の程度をモストグラフがどの程度正確に評価できるか、従来のFV曲線等とよく比較して欲しい。喘息増悪の予知ができるようになれば、臨床的にも非常に有意義なことである。喘息増悪の予知因子について、各因子の信頼性を個別に評価することも大事だが、これらの予知因子を全部組み合わせた場合、どのくらいの確率で増悪を予測することができるか検証する必要がある。
- ・喘息とCOPDのoverlap症例の抽出と評価に現在の測定指標(%FVC、FeNOなど)がどの程度有用であるかを更に症例を増やして検討することを期待する。
- ・一般診療で応用しやすい方法、指標でコントロール評価することを目指した実用性に富んだ研究である。JGL2009のコントロール指標とACTの評価との比較についても可能であれば検討願いたい。
- ・喘息のコントロールの評価の指標としてV25、V50も有用であると思うが是非検討してもらいたい。
- ・COPD合併例のデータ蓄積及び解析評価に期待する。